

## インターバンクの声（2015 年 11 月 18 日）

昨夜の海外市場も概ね平穏だった。米消費者物価指数は若干ながら事前予想を上回り、鉱工業生産は少し弱目だったが、引き続き米連邦準備制度理事会（FRB）の12月の利上げ観測が後退する材料は出てこない。欧州株は欧州中央銀行（ECB）の追加緩和に対する期待やギリシャ支援交渉が進んだことなどが背景となって堅調だが、防衛・軍事関連企業の株が買われたのが全体を押し上げていたようだ。過激派組織「イスラム国」拠点への空爆強化とも関連しているようで、為替市場とは違って微妙に前週末のパリ同時多発テロによる影響が株式市場には出ているようだ。ドル円は相変わらず123円台でドルの上値が重くなってしまっているが、ユーロは4月以来の1.06ドル台の安値をさらに切り下げたいようだ。ただ市場参加者の多くは、19日に公表される前回のECB理事会の議事録の内容を確かめたいことや、さらにはユーロの売りポジションが相当大きくなっていることも思い切ったユーロ売り仕掛けには慎重にさせているようだ。

---

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。